

## 令和5年度 第4回 学校運営協議会 議事録

校名	府立富田林高等学校 府立富田林中学校
校長名	高等学校長 田中 肇 中学校長 大門 和喜

開催日時	令和6年3月2日(土) 15:00 ~ 17:00
開催場所	府立富田林中学校・高等学校 校長室
出席者(委員)	津田会長、石井副会長、大谷委員、楠本委員、笠原委員
出席者(学校)	田中高校校長、大門中学校長、國近高校教頭、鍵田事務長、田中(事務局長)
傍聴者	東京都立立川国際中等教育学校 副校長 小澤 信敬
協議資料	・地域フォーラムの振り返り
備考	

## 議題等(次第順)

中学校長より  
文科省から探究の調査研究協力校の依頼を受けた。  
委員の先生方には、来年もぜひアドバイスいただきたい。  
高校校長より  
地域フォーラムについてご意見いただきたい。発表班が多く、一方で各班が、いままでどんな研究をしてきたかがわからなく、行き当たりばったりで発表を聞いている節がある。プリントではなく、冊子を作るべきか。

## 協議内容・承認事項等(意見の概要)

○人が集まらなくて、困っている班があった。一方で、スライム作りや楠本委員の生け花教室については参加人数が多く、補助スタッフは増やしたが、十分に対応できなかった。運営側で工夫はできないのか？  
→聞き手の問題もあると思う。(聞き手のレベルが上がれば、発表の本質が見えてくる。)  
○先生がもっと質問しないといけない。先生が質問のレベルを上げていかないといけない。  
○今日の場は、生徒の姿が見える舞台である。生徒自体がこの発表をどのように位置づけているのか？を確認してみることが大切。  
○企業名で呼び込みをしていた。これについては、いい面と悪い面がある。動機はしっかりしている。大阪で地域参画型は難しいがよくやっている。SSHなどはGL10校などは高大連携で持続しやすい。学びのプロセスが語れることが大事。試行錯誤のプロセスが語れるか、が大事。問いの連鎖。  
○中1～中3の探究のプロセスを逆にするのもいいのでは？(最終的に地元企業に提案する。)  
○発表者が多すぎて、全てを深く理解するには難しい。  
○これだけフィードバックを貰える機会を貰えるのは素晴らしい機会である。  
○どんな力をつけさせたいか？(目標)を明確にすることが大事。めざす生徒の姿(学校のあるべき姿)を見失っている事が多い。カリキュラムは生徒が歩いた道。目標は立てて終わりではなく、意識し続けることが大事。広島中高、奈良中高は目標との連結ができています。  
○文献や下調べが甘い。先行研究がきっちり調べられていないことが多い。ダイジェスト資料など、手持ち資料がない。高校は企業との連携を活かせていない。  
○オリジナリティを全面に出すと、逆に薄い内容になる。中高の生徒は論文を入手できない。お金をかけるなら、チューターに付けるべき。研究の伴走者になるには、大学院生くらいがちょうどよい。  
○インターネットで検索した内容を見ても、限界がある。そのことに気づくことも大事。  
○学校の先生がアドバイスをするには限界がある。ナナメの関係の人が大切。  
○研究のレベルはそこまで気にしなくていいが、生徒のものを考える力の変容をしっかり見ることが大事。総合型選抜のため、きれいな研究が増えているが、最終的には口頭試問で力が問われる。非認知学習に囚われすぎないことも大事。

## 次回の会議日程

日時	来年度の日程は未定
会場	